

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370900435
法人名	医療法人社団 福本会
事業所名	グループホーム 和樂
訪問調査日	平成 20年 2月 13日
評価確定日	平成 20年 2月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4370900435
法人名	医療法人社団 福本会
事業所名	グループホーム 和樂
所在地	熊本県天草市牛深町1641-4 (電話) 0969-72-3232

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号ロフティ長安寺ビル402号		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(20年 1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.82 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福本会 福本病院、鬼塚歯科医院、明照園・老人保健センター鶴丸
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街中の大通りから入った商店街の中にあり和風の落ち着いた佇まいのホームは手入れの行き届いた中庭が入居者の憩いの場や散歩に利用され、身体機能維持や筋力低下防止に効果的である。管理栄養士によるバランスのとれた食事、季節の食材の先取り等の楽しみがあり健康面で配慮がみられる。ホームと家族との信頼関係が構築されている。地域での行事への参加は意欲的である。研修の機会を増やすことにより職員のケアの質の向上を図ることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度改善項目になっている家族・地域との理念の共有やプライバシーへの配慮、調理片付けを入居者と一緒に行い食事を楽しむ支援や研修などについてはそれぞれの改善目標をたて、真摯に取り組んでいる。また、それぞれについて評価を行い、ケアの質の向上につながっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は運営面を、職員は入居者との関わりの部分を重点的に自己評価を行い、その後、管理者・職員で話しあい管理者がまとめている。外部評価の結果は改善点を話しあい課題に対して全員で取り組む姿勢である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	議題としてホームからは入居者の状況や行事及び今後の予定等を報告し、家族や行政からは認知症ケアや予防策、リハビリの個別計画についての説明が求められている。また、地域との交流や職員の研修の必要性についても討議されており、地域でのホームの役割やケアの質を高めるための活発な意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時や毎月の和楽通信発送の際に担当者から手紙で近況報告を行なっている。外出や行事への参加に家族の協力を得ており、ホームに理解を深めてもらう機会作りながら家族からの意見・要望を聞き、ホームの運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事には積極的に参加しており、家族の参加を含めた支援が図られている。近所にはホームの存在は周知されており入居者を見かけると連絡があり、少しずつ関わりが来ている。今後は地域住民に対する認知症やケアについての啓発の役割が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム和樂の「和」「樂」より「和やかに楽しく」を理念に掲げている。地域密着型としての理念の見直しで分かり易く覚えやすいということを再確認し合あった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で見直したことで理念の共有が図られ、また毎月の集会や申し送りでも具体的な実践を確認している。理念に沿った日々の支援に取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会には家族の協力を得て参加している。ハイヤ祭りの応援を沿道でしたり、数ヶ月間練習して臨む横田良一祭りへの参加等町の行事には積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、日々の支援についても職員各自で自己評価を行いその後全員で話し合っている。外部評価の結果についても改善点については対策を話しあい実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催し、入居者の状況・地域との交流・認知症ケアについて・職員の研修や外部評価等を議題に上げ、活発な意見交換が行なわれており、ホーム運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの出席があり、意見・助言を得ている。市役所の担当者とは申請書提出の時に助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、和楽通信を発行し担当者から一筆添えて送付している。又面会時や電話にて暮らし振りを知らせている。職員の交代は家族へ紹介したり、和楽通信にも掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事への手伝い等の際に意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。また、管理者による家族宅訪問時にも意見を聞くようにしており出された意見や要望はミーティングで話し合い運営へ反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動による影響を理解しており、法人内の異動は行わずホーム専任として採用している。新任には現任の従業者がついて入居者と馴染みの関係が出来るよう指導育成している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は研修の必要性を認識しており、法人内研修には積極的に参加している。外部研修についても参加の意欲はあるが、遠方での研修が多く、今後の課題となっている。		行政機関等に地元での研修会開催の働きかけを継続的に行うなどの試みにも期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヵ月ごとのグループホーム連絡協議会に管理者や計画作成担当者が主に参加し、認知症ケアや看取り・身体拘束や個人情報保護について等の勉強会や情報交換をしている。		職員の参加、交流の機会を持つような取り組みも期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に家族や介護支援専門員と十分な話し合いを行い見学をしてもらっている。情報を職員と共有し知人や家族の協力を得ながら馴染んでもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の得意分野で能力を発揮できるような場面づくりを行い、共に過ごしながら学びあう関係である。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>気持ちのキャッチボールの関係が出来ており、本人の受容を行い、意向・希望の把握にも努めている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当スタッフが日々の暮らしの観察や会話からアセスメントを行い、職員全員で話しあい、本人・家族の意向をもとに管理者が介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年ごとの定期的な見直しと、本人の状況変化時や家族の要望があれば随時見直しをしている。作成後はミーティングを行い、職員で確認して共有を図っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月1回の定期受診同行や週1～2回のリハビリの送迎、職員が外出する際には入居者と一緒に外出している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・整形外科・眼科は法人施設と連携を図り通院支援を行っている。専門医受診については家族が同行する。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	多くの家族は法人医療施設を希望しているためホームとしての重度化や終末期に向けた方針は特に無い。		入居者の高齢化に伴い、法人施設との協力を得て、ホーム独自の勉強会開催を望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を尊重しプライバシーへの配慮や個人情報の保護に努めている。		言葉かけや対応等については、職員の共有を図るためにも計画的な勉強会を期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや状況、希望に沿ってその人らしい暮らしが送れるように支援している。外出の希望にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には法人施設で献立・調理した食事であるが入居者の希望と栄養には十分配慮している。週2回は食事をホームで作り、好みのメニューをもとに買物・調理・盛付・後片付けを行い、楽しい食事の時間となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿った入浴支援をしている。拒否の方には無理強いせず、声かけに工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、食事の準備や洗濯・掃除・畑仕事等役割を發揮できるような場面設定をしている。入居者との会話の中から把握した相撲観覧や歌謡ショー・孫の行事参加等の楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には中庭の散歩やユニット間の訪問をしている。食材の買物や職員の用事に一緒に出かけたり、その日の希望に応じ買物等の支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関の施錠はしていない。廊下や非常口などからも出入り自由のため、入居者ごとの外出パターンを把握し出かける気配を察知し支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、法人関連の隣接するデイサービスと共に避難訓練及び通報・消火訓練を行っている。地域の消防団へ協力を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立でバランスの取れた食事になっている。一人ひとりの状態に合わせた支援を行い、食事量や水分は記録によって把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に共用空間はゆったりとしている。2ユニットをつなぐ自慢の中庭は自家菜園や散歩道へもつながっており内外を自由に行き来できるよう工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具やTV・馴染みのもの等が持ち込まれ、個性的な居室作りの支援を行なっている。部屋でくつろぐ入居者もおり多様な過ごし方ができるよう工夫している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和樂
(ユニット名)	壱番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市牛深町1641-4
記入者名 (管理者)	今村 汐美
記入日	平成 20 年 1 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「和やかに楽しく」はホームの特徴が分りやすく覚えやすい理念になっており、日々のケアにも活かしています		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、リビングに掲示し、理念にそった和やかに楽しい生活を送れるよう場面に応じた支援をしています		入居者の方にも朝の申し送りの後理念を紹介、説明しています
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者は勿論、来訪者にも自然に目に入る位置に提示、家族の方には通信誌を利用して分りやすく紹介、説明しています。また、地域の方々には運営推進会議を通して説明し、理解していただいています		ボランティア、見学など来訪された方にも理念を紹介、説明し、理解してもらえるよう取り組んでいます
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺の方々は入居者の顔を覚えて頂いており、1人で外へ出られた時など知らせて下さいます。また、スタッフとの挨拶も交わして下さい、個人的には会話する機会も増えました		顔見知りの関係にはなってきた。もっと日常的な付き合いが出来るよう努めています
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老祝賀会出席、横田良一祭出場、ハイヤ祭りは沿道にて応援、隣町へ花見、温泉行きなどありました。また、婦人会の方々とは葉団子作り、敬老の日には慰問を受け踊りを披露していただきました。、樽神輿、子供消防クラブ、小学生の訪問と子供たちとの交流もありました		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人内で家族介護教室を開催しました		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には評価の意義を説明し、全員で自己評価に取り組むようにしています。評価の結果は全員集会で報告し改善に向けての対策を話し合い実践につなげるための努力をしています		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されています。議題はホーム理念、評価結果報告、行事、利用者の現状など話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしています		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員になっていただいたことで意見、助言など頂き、サービスの質の向上に取り組んでいます		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個人的には研修に参加して理解を深めているが殆どの職員は勉強不足だと思います		制度的な勉強にも学ぶ機会を持ち知識の向上につながるように行きたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員集会にて勉強会に参加した職員から発表してもらい、全職員へ理解、浸透を深めました		研修の案内など利用して学ぶ機会を多く持つように行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に分かりやすく示されている書面を通して説明。十分な説明の上、納得、同意を得ています</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外泊された時、家族に尋ねたりして本人の意向に配慮し対応しています。また、入居者の方に直接尋ねることもあり、「ここが一番よか」と殆どの方が言って下さいます</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の和楽通信を家族へ届けた際、または電話、来訪時に健康状態や日頃の暮らしぶりを詳しく伝え、状態変化時はその都度連絡をしています。金銭管理は個別の出納帳に記入、家族のサインをいただいています</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族宅訪問時、または来訪時に声かけし、何でも言えるような雰囲気作りに心がけています。また、運営会推進議にて家族代表の方から意見をもらう事があります。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させています</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の希望も取り入れ、ストレス発散ができるような勤務の調整に努めています</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>当ホームは2ユニットで常時8人づつの体制でサービス提供を行っており、急きょ調整が必要になった時でも柔軟に対応できています</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人スタッフは入居者にきちんと紹介し、馴染みの職員と一緒にケアしながら接するようにしています</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修には積極的に参加しています。外部研修についてもできるだけ受講できるよう配慮しています		もっと外部研修を全職員が受講できるよう配慮し、職員の質の向上を図りたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に加入、定期研修会に参加し、情報交換ができ、学ぶことも多く参考にしています		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の親睦を働きかけ、ストレスを貯めないよう、発散できる時間が持てるよう休みの希望には配慮しています		きちんとした休息が取れてないのが現状です。昼食後入居者と一緒ではありますがお茶しながら寛いでいます。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は評価していただいています		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には担当ケアマネ同行で面会に行き、心身の状態や意向を汲み取るようにしています		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聴き、思いを受け止め、適切に対応することで信頼関係を築いていくようにしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況など確認し、必要としているサービスが提供できるよう努めています		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、家族の方にホーム見学をしていただき、また、担当ケアマネ他関係者よりの状況把握に努め、安心して馴染んでいただけるような雰囲気づくりをしています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くの入居者に得意分野で力を発揮してもらい場面作りをしています。料理、後かたづけ、戸締りなど一緒に行いながら喜怒哀楽を共にし、寄り添い、お互いが支えあえる関係を築いています		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に日々の暮らしの出来事や気づきを共有し、家族と同じ思いで支援していくことを伝えています		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会、ミニ運動会などホーム行事への参加を働きかけ、より良い関係の継続に努めています		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容室を希望される方には送迎をしたり、知人に付き添っていただいたりして馴染みの関係が途切れないよう支援しています		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで歌を歌ったり、ことわざ遊びなど楽しく過ごす時間や気の合う物同士で過せる場面づくりをするなどして支援しています		自室でTV視聴され過ごされる方には一緒に楽しめるよう声かけしています。食事は一緒に楽しまれています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族にお会いすることがあれば挨拶に留まらず近況報告など交わしています		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわり、会話の中から、本人の思いや意向を把握できるようにしています		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聞き取り、入居後も折に触れこれまでの生活の様子などプライバシーに配慮しながら聴いています		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々関わる中で、できることにも注目し、その人全体の把握に努め職員間で共有しています		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、アセスメントを含め職員全員で話し合いケアプランを作成しています		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの見直しや入居者の状態の変化、本人、家族の要望があれば随時見直しを行っていくようにしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉などの記録により、状態変化もわかり情報を共有しながらケアに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、定期受診介助、リハビリなどの送迎を支援しています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当ホームでは入居者の家族の協力で婦人会の方のボランティアを受けることが多くなりました。		運営推進会議を通して民生委員の方にも支援の協力をお願いしています
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の希望があれば積極的に支援していきます		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方がおられ情報交換を始め連携を図っています		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設と連携を図り、定期受診は職員が同行、他専門医受診は家族をお願いしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体施設には5人のドクターがおられるので助言を頂いたり、必要時は紹介状を書きいただき専門医を受診するようにしています		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が従事しており、相談しながら日常の健康管理を支援しています		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	殆どの入居者の方が母体施設への入院となられる為、状態報告もあり、また、面会にて状態を確認する事ができてます。病状が安定したら早期の退院を働きかけています。退院後も常に情報交換ができています		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	殆どの家族が母体の施設を希望されています。状態の変化があるごとに本人、家族に思いを尋ね支援しています		今後ターミナルケアの研修などに参加して職員の意識付けを図って行きたい。また、職員間でも話し合いを設けて行きたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を踏まえ、随時意志を確認しながらケアに当たっています。ターミナルケアに取り組んだ事例はありません。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	母体施設へ移られる方が殆どである。住み替えによるダメージを防ぐよう情報を提供しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者1人ひとりを尊重し、言葉使いや対応を常に気をつけ、個人情報の保護を徹底しています</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせて声掛けをし、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、複数の選択肢を提案して、本人が自分で決める場面を作っています</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活のリズムに配慮しながら起床、入浴時間の長さ、食事にかかる時間などについて、本人のペースにそって柔軟に対応しています。休息される方、外出される方など希望にそって支援しています</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自分で選んでその人らしい装い、おしゃれを楽しんで頂いています。行きつけの床屋・美容室を希望あれば送迎を行い、スタッフでよいと言われる方はカット、毛染め等一緒に楽しんで行っています</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>順番に好みを尋ねて献立を決め、調理、盛り付け、食器拭きなど後片付けまで一緒に行い、サポートの必要な方には同テーブルに席し、楽しく食事ができるよう支援しています</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好を理解しており、別の味付けで対応する場合があります。朝からコーヒーを楽しまれる方もいらっしゃいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立していない方の排泄パターン、時間毎の声かけ誘導、表情、仕草、行動など1人ひとりを観察し、サインを見逃さないよう心がけています。また、歩行不安定な方、車椅子の方の見守りは毎回行っています。自立されている方はさりげなく見守っています		重度化に伴いオムツ使用者が増えましたが1人ひとりに合わせた使い方を考慮し、自立支援、プライドの保持に配慮しています
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声掛けをしていますが、希望を伺って、入って頂いています。拒否される方へは無理強いはしませんが気分が変わられた頃再度声かけをしています。気の合った方と楽しく入られる方もいらっしゃいます		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を促し、夕食後はTVを観ながら和やかに過ごされるよう支援し安眠につなげています。トイレの設置で安心して眠れると喜ばれる方もいらっしゃいます。寝付けない方には、暖かい飲み物を飲みながらコミュニケーションをとり、安心して休めるよう支援しています。昼間の休息も1人ひとりの体調や表情など観察しながら休息を促しています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き、米とき、テーブル拭き、洗濯物干しなどできる範囲で声かけし、行ってもらい感謝の言葉を伝えることで笑顔も見られます。米ときは「自分の責任」と頑張られる方もいらっしゃいます。ドライブを好まれる方は「気分がほっとする」と喜ばれます		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃はスタッフが管理していますが買い物される時は自分の財布から支払っていただくよう支援しています。小額ではあるが所持していただいている方もいらっしゃいます		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遊歩道もある広い中庭を利用して天気の良い日には散歩へ誘って、山の緑、畑の野菜、庭の草花を眺め季節を肌で感じてもらっています。外へ出るのが好きな方は職員の用事に付き合いドライブ気分を味わっておられます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム行事として、隣町へお花見を兼ね温泉行きも実施しています。家族の参加もあり、外食も楽しんで頂きました		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	和樂通信と一緒に近況を綴った手紙を家族のもとへ出される方もいらっしゃいます。贈り物が届くと他者へ聞こえない場所から電話を掛けていただいています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は特に設けてなく、訪問者があると、常に笑顔でお迎えし、自室で談話して頂いたり、リビングにて他の方ともお話が出来るような雰囲気作りに心がけています。また、数名の家族の方が宿泊されたことがあり、生活の様子もわかり「安心した」と喜んで下さいました		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、ミーティング等で話題に揚げ職員の共有認識を図っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることがなく廊下のサッシ、非常口からと自由に入出入りされている方もおられます。玄関はチャイムが鳴るが来訪者、入居者が出て行かれる気配の見落としに役立て、自由かつ安全な暮らしを支援しています		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の居場所の確認を常に行なっています。夜間は見通しのよいリビングで過ごし、2時間毎に巡視、物音がしたら様子を伺いに行き安全確認を行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は事務室に保管し、刃物は職員の管理の下にあります		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りミーティングにて一人ひとりのリスクを検討し、職員の共有認識を図っています。事故が起きた場合は速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討し、家族への説明、報告を行っています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないがミーティング時研修はしています。現在緊急マニュアルの本にて再度学んでいます		全ての職員が対応できるよう訓練を定期的に行って行きたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、利用者と共に消防訓練を行い、避難、通報、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族へは起こり得るリスクの現状と対策等も説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を把握し、変化があれば申し送りや記録に残し、早期発見と対応に努めています。変化が見られる場合は看護職員と相談し必要時は病院受診していただいています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の説明書を見て効能、副作用、用法、用量を理解して、服薬を支援。身体変化のある場合、かかりつけ医に相談し指示を頂いています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューは管理栄養士にて管理されていますが、多めの水分補給、乳製品の摂取、腹部マッサージ、軽い運動を心がけ、支援しています		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケア、無歯の方へも舌磨き、うがいの声掛け等の支援を行い、一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアを支援しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士との連携がとれており栄養バランスのとれた献立になっています。食事は一人ひとりに合わせた形状にし、又、ムセのある方へはトロメリンの使用等で美味しく楽しい食事が出る様支援しています。食事量、水分量は把握し、記録にも残しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体となる病院の感染対策マニュアルに準じ対応しています。インフルエンザについては毎年、家族・本人了解を取り予防接種を受けて頂いています。常に、手洗いうがいを励行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は漂白剤、レンジを利用して毎日消毒、清潔に心がけています。冷蔵庫、食器棚等は定期的に点検、整理を行っています。管理栄養士との連携を取り、新鮮で安全な食材を使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム門は日中開放し、気軽に出入りできるようにし、玄関周りには季節の花を植え、家族の方の手作りによる木製のおしゃれな表札がかけてあったりと、親しみやすく、温かい雰囲気になっています		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東屋のある中庭を挟み、2つのユニットが建ち、お互いのリビングの様子も見ることが出来ます。明るく広いリビングでは音楽、レクリエーションなどを楽しめます。また、季節の花を入居者と一緒に飾ったりして居心地よく過ごされるよう配慮しています		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まるリビングにはテレビ、ソファを設置し、入居者同士が会話を楽しんだり、横になられる等のスペースとしています。又、中庭を散歩され、ベンチにて気の合う仲間とお喋りの場面も多く見られます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、自身が書かれた書など飾り、個々に好みのペットカバーを使用されたり、夏季にはそれぞれのれんを下げ視覚の涼しさ家庭の雰囲気を感じていただけるよう工夫しています		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を常設しているのに加え、自室以外の活動中は努めて窓を開け換気を心がけています。それぞれの居室のエアコンにより個々の状態に合わせた温度設定も心がけています		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで手すりが設置してあります。また、自室内を安全に移動できるよう椅子や家具などの配置にも配慮しています		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室など分りやすいように目線に合わせて大きく表示しています。また、季節によってはのれんを下げその方の個性を出し工夫しています		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日当たりの良い縁側は日光浴をしながら中庭を眺め憩いの場所になっています。また、東屋でのお茶を楽しんだり花や緑を眺める散歩コースにもなっています		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

町の中心で交通の便もよく、閑静な小高い丘の上に立地しております。憩いの場である中庭では四季折々の花が咲き東屋から楽しむことができ、散策には格好の場所になっています。医療面の充実、学習療法、身体機能訓練への取り組み、更には新鮮な季節の食材や漢方石を使ったおいしい水を利用し、食生活の面でも健康保持に配慮しております。広々と明るい館内で、優しいスタッフと和やかに楽しく過ぎて頂き、束縛されない自由な生活ができます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和樂
(ユニット名)	式番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県 天草市 牛深町 1641番地の4
記入者名 (管理者)	伊藤 京子
記入日	平成 20 年 1 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「和やかに楽しく」はホームの特徴が分りやすく覚えやすい理念になっており、日々のケアにも活かしています		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、リビングに掲示し、理念にそった和やかに楽しい生活を送れるよう場面に応じた支援をしています		入居者の方にも朝の申し送りの後理念を紹介、説明して行きたいと思います
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者は勿論、来訪者にも自然に目に入る位置に提示、家族の方には通信誌を利用して分りやすく紹介、説明しています。また、地域の方々には運営推進会議を通して説明し、理解していただいています		ボランティア、見学など来訪された方にも理念を紹介、説明し、理解してもらえよう取り組んでいます
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺の方々には入居者の顔を覚えていただいている方もおられ、外へ出られた時など知らせて下さり、スタッフとの挨拶も交わして下さいます		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老祝賀会出席、横田良一祭出場、ハイヤ祭りは沿道にて応援、隣町へ花見、温泉行きなどありました。また、婦人会の方々と葉団子作り、敬老の日には慰問を受け踊りを披露していただきました。、樽神輿、子供消防クラブ、小学生の訪問と子供たちとの交流もありました		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人内で家族介護教室を開催しました		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には評価の意義を説明し、全員で自己評価に取り組むようにしています。評価の結果は全員集会で報告し改善に向けての対策を話し合い実践につなげるための努力をしています。日々の生活の中で、常に評価の意義を心得、レベルアップを図っています		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されています。議題はホーム理念、評価結果報告、行事、利用者の現状など話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしています		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員になっていただいたことで意見、助言など頂き、サービスの質の向上に取り組んでいます		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	数名の職員が研修に参加し、ミーティング時情報提供し、学んだが、理解不足と思われるので更に学んで行く必要があると思います		制度的な勉強にも学ぶ機会を持ち知識の向上につながるようにしていきたいと思います
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員集会にて勉強会に参加した職員から発表してもらい、全職員へ理解、浸透を深めました		研修の案内など利用して学ぶ機会を多く持つようにしていきたいと思います

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に分かりやすく示されている書面を通して説明させて頂いています。十分な説明の上、納得、同意を得ています</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外泊された時、家族に尋ねたりして本人の意向に配慮し対応しています。また、入居者の方に直接尋ねることもあり、「ここが一番よか」と殆どの方が言って下さいます</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の和楽通信を家族へ届けた際、または電話、来訪時に健康状態や日頃の暮らしぶりを詳しく伝え、状態変化時はその都度連絡をしています。金銭管理は個別の出納帳に記入、家族のサインをいただいています</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族宅訪問時、または来訪時に声かけし、何でも言えるような雰囲気作りに心がけています。また、運営会推進議にて家族代表の方から意見を頂く事があります。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させています</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の希望も取り入れ、ストレス発散ができるような勤務の調整に努めています</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>当ホームは2ユニットで常時8人づつの体制でサービス提供を行っており、急きょ調整が必要になった時でも柔軟に対応できています</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人スタッフは入居者にきちんと紹介し、馴染みの職員と一緒にケアしながら接するようにしています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修には積極的に参加しています。外部研修についてもできるだけ受講できるよう配慮しています		もっと外部研修を全職員が受講できるよう配慮し、職員の質の向上を図りたいと思います
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に加入、定期研修会に、吾番館の管理者が参加しているので情報提供して頂き、学ぶことも多く参考にしています		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の親睦を働きかけ、ストレスを貯めないよう、発散できる時間が持てるよう休みの希望には配慮しています		きちんとした休息が取れてないのが現状です。昼食後入居者と一緒ではありますがお茶しながら寛いでいます
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は評価していただいています		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には担当ケアマネ同行で面会に行き、心身の状態や意向を汲み取るようにしています		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聴き、思いを受け止め、適切に対応することで信頼関係を築いていくようにしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況など確認し、必要としているサービスが提供できるよう努めています		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、家族の方にホーム見学をしていただき、また、担当ケアマネ他関係者よりの状況把握に努め、安心して馴染んでいただけるような雰囲気作りをしています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くの入居者に得意分野で力を発揮してもらい場面作りをしています。料理、後かたづけ、園芸、掃除など一緒に行いながら喜怒哀楽を共にし、寄り添い、お互いが支えあえる関係を築いています		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に日々の暮らしの出来事や気づきを共有し、家族と同じ思いで支援していくことを伝えています		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会、ミニ運動会などホーム行事への参加を働きかけ、より良い関係の継続に努めています		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族など来訪の際、くつろいで頂けるような雰囲気作りをしています。希望があれば外出、買い物など馴染みの関係が途切れないよう支援しています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の関りの中で、声を掛け把握に努めています。言葉や表情から推測し、孤立しないよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族にお会いすることがあれば挨拶に留まらず近況報告など交わしています		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわり、会話の中から、本人の思いや意向を把握できるようにしています		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聞き取り、入居後も折に触れこれまでの生活の様子などプライバシーに配慮しながら聴いています		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々関わる中で、できることにも注目し、その人全体の把握に努め職員間で共有しています		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに、アセスメントを含め職員全員で話し合いケアプランを作成しています		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの見直しや入居者の状態の変化、本人、家族の要望があれば随時見直しを行っていくようにしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的状況、日々の暮らしの様子、本人の言葉などの記録により、状態変化もわかり情報を共有しながらケアに活かしています		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、定期受診介助、リハビリなどの送迎を支援しています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当ホームでは入居者の家族の協力で婦人会の方のボランティアを受けることが多くなりました。		運営推進会議を通して民生委員の方にも支援の協力をお願いしています
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の希望があれば積極的に支援していきます		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方がおられ情報交換を始め連携を図っています		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設と連携を図り、定期受診は職員が同行、他専門医受診は家族をお願いしています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体施設には5人のドクターがおられるので助言を頂いたり、必要時は紹介状を書きいただき専門医を受診して頂いています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が従事しており、相談しながら日常の健康管理を支援しています		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	殆どの入居者の方が母体施設への入院となられる為、状態報告もあり、また、面会にて状態を確認する事ができてます。病状が安定したら早期の退院を働きかけています。退院後も常に情報交換ができています		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	殆どの家族が母体の施設を希望されています。状態の変化があるごとに本人、家族に思いを尋ね支援しています		今後ターミナルケアの研修などに参加して職員の意識付けを図って行きたいと思います
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を踏まえ、随時意志を確認しながらケアに当たっています。ターミナルケアに取り組んだ事例はありません。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	母体施設へ移られる方が殆どです。住み替えによるダメージを防ぐよう情報を提供しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、言葉使いや対応を常に気をつけ、個人情報の保護を徹底し記録等も管理しています	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	一人ひとりに合わせて声掛けをし、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、複数の選択肢を提案して、些細なことでも本人が決める場面を作っています	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら起床、入浴時間の長さ、食事にかかる時間などについて、本人のペースで行えるよう柔軟に対応しています。休まれる方、外に出られる方など一人ひとりの希望にそって支援しています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で選んでその人らしい装い、おしゃれを楽しんで頂いています。理容・美容は利用のある方は行きつけの床屋・美容院へ送迎を行い、また、スタッフでよいと言われる方はカット等一緒に楽しんで行っています。年一度の横田良一祭参加時、ステージ用の化粧をすると、生々とした表情をされます。また、毎日化粧をして出て来られる方もおられます。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	順番に好みを尋ね、献立を決め、調理できる方は参加され、一緒に行い個々の発揮する場面作りが出来ています。片付けも下膳・台拭き等一緒に行われています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは一人ひとりの嗜好物を理解しており、好まない物の場合は別の物を楽しめるようにしています。飲み物等、希望にそって楽しんで頂いています。お酒も、誕生日会・mas会等飲まれる方もおられます。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしています。オムツ使用者は、サインを見逃さないようにし、時間を見て声掛けをしています。リハパン・尿取り使用者は個々に応じて、見守り・介助を行っています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声掛けをしています。その日の希望を確認し入って頂いています。拒否される方へは、無理強いはいませんが、気分が変わられた頃、再度声掛けをしています		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜、休んでいただけるよう、日中の活動を促しています。その日の体調や個々の表情や希望を取り入れ、ゆっくり休める様、支援しています。寝付けない方には、暖かい飲み物を飲みながらコミュニケーションをとり、安心して休めるよう支援しています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事作りは、一人ひとりできる範囲で声掛けし、行って頂き、感謝の言葉を伝えます。レクリエーションや行事への参加も決して無理強いせず、楽しく参加して頂く様、声掛けは常に行います		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理している方が多いですが、自分でお金の管理ができる方は希望時買物に同行しています。行かない方でお金だけ職員へ渡し依頼される方もおられます。又、場面に応じ、出来ない方にも少額のお金をお持ち頂き、自分の財布より出され楽しめる様な支援もしています		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、その他の気分に応じ、買物への支援、又、海へのドライブ、温かい時は公園、山等へのお花見へ出掛けたり、敬老会、横田良一祭ではステージにも出られる支援もしています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自ホームの行事として、お花見を兼ね温泉行きも実施しています。家族の協力も得、その時は外食も楽しんで頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望されたりする時は、すぐに連絡できるよう心がけています。又、郵便物や荷物等が届くと、職員の方から声掛けを行い、コードレス電話を使い、いつでも自室で話せるようにしています。又、手紙を書かれる方の支援もしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は設けてなく、訪問者があると、常に暖かくお迎えし、自室で談話されたり、又、リビングにて、他の方ともお話ができるような雰囲気を作っています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが、声による拘束がないとは言いきれません。日々の申し送り、ミーティング等で話し合い職員の共有認識を図っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していません。外へ出られる傾向のある方の、その日の気分や動きを把握し、対応しています。又、外へ出られたときは近隣の方より連絡をもらった事もあります。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間でお互い利用者の居場所を確認取り合いながら状況を把握できるよう努めています。夜間は、数時間ごとに居室巡回したり、常に小さな音も聞き逃さず、安全確認を行っています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理をされたり、時には縫い物をされたりするので、状況に応じて、必ず職員が付き添い見守っています。包丁、洗剤、薬品等も危険なものは利用者の目につかない場所に保管する様、心がけています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りミーティングにて一人ひとりのリスクを検討し、事故が起きた場合の原因、対策、家族への説明、報告等ヒヤリ・ハット、事故報告書に記録し、職員間で共有しています。		法人内の勉強会に参加しています。ミーティングにても看護職員により勉強会も行っていますが更に学んで行きたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング時研修はしていますが緊急時に対応できるか、疑問は残ります。現在緊急マニュアルの本にても再度学んでいますですがさらに研修が必要と思われます。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、利用者と共に消防訓練を行っています。消防署の協力によって避難訓練、消火器の使い方など、定期的に行っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況に応じ、家族へ連絡を取り、リスクの現状と対策等を説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝必ずバイタルチェックを行い一人ひとりの体調管理に努めています。変化が見られる場合は看護職員と相談し必要時は病院受診して頂いています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用方については全職員が対応できるよう処方箋等を見て把握しています。身体変化のある場合、かかりつけ医に相談し指示を頂いています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューは管理栄養士にて管理されていますが、多めの水分補給、乳製品の摂取、腹部マッサージ、軽い運動を心がけ、支援しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケア、義歯のない方へもうがいの声掛け等の支援を行っています。一人ひとりの力に応じた口腔ケアを支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士との連携がとれており栄養バランスのとれた献立になっています。食事は一人ひとりに合わせた形状にし、又、ムセのある方へはトロメリンの使用等で美味しく楽しい食事が出る様支援しています。食事量、水分量は把握し、記録にも残しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体となる病院の感染対策マニュアルに準じ対応しています。インフルエンザについては毎年、家族・本人了解を取り予防接種を受けて頂いています。常に、手洗い・うがいを実行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾等は漂白剤等にて毎日消毒しています。冷蔵庫、食器棚等は定期的に点検、整理を行っています。管理栄養士との連携を取り、新鮮で安全な食材を使用しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム門には、日中開放し、気軽に入られる様にしています。玄関前には花を植え、温かい環境作りに心がけています。又、手作りの表札を掲げて温かい雰囲気を出しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東屋のある中庭を挟み、2棟の建物が建ち、居心地の良い空間です。天気の良い日は天窓からの日差しを浴び、又、ウッドデッキにて、風景を眺めながら、お茶、レクリエーション等楽しまれています。リビングには手作りのカレンダーや季節の花を飾り、季節感が出るよう配慮しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まるリビングにはソファを設置し、利用者同士が会話を楽しんだり、横になられる等のスペースとしています。読書コーナーもあり、自由に読まれています。又、中庭を散歩され、ベンチにて気の合う利用者が話されている場面も多く見られます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の要望を伺い、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂ける様に配慮しています。家族写真、亡くなられた方の遺影を置かれ、毎日供養されている方もおられます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	館内24時間対応換気扇が配備してあります。又、掃除時天気の良い日は開放し、換気に心がけています。又、エアコンを使用する際は利用者の身体状況に合わせ、共有スペース・自室の温度を調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は独歩の利用者が行き来しやすいよう、手すりを設置してあります。現在レベル低下にて入浴困難な方もおられ、機械浴設置準備中です。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の申し送り、ミーティングにて問題点を検討し利用者の混乱、失敗が最小限に防げるよう努めています。又、表札等、利用者の目線に合わせた高さに設置し、自室のわからない方へは目印となるものをつけています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はウッドデッキや中庭にて、お茶や、レクリエーション、外気浴、日向ぼっこを楽しめます。又、畑へは利用者が楽しんで作物を作られたり、周囲に花を植えたりと楽しんでいます。		

サービスの実績に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

町の中心で交通の便も良く閑静な小高い丘の上に立地しております。憩いの場である中庭では四季折々の花が咲き、東屋から楽しむことができ、散策には格好の場所になっています。医療面の充実、学習療法、身体機能訓練への取り組み更には、新鮮な季節の食材や漢方石を使ったおいしい水を利用し、食生活の面でも健康保持に配慮しております。広々と明るい館内で優しいスタッフと和やかに楽しく過ごして頂き束縛されない自由な生活が出来ます。